

News

2010年7月6日

博報堂こどもごころ製作所、こどもの自由な発想を iPhone アプリで再現。 アイデア創造支援アプリ「切り口 BOY」 7月6日から販売開始

博報堂の専門組織である「こどもごころ製作所 (*1)」は、ビジネスシーンでのアイデア創造を支援する iPhone アプリケーション「切り口 BOY (ボーイ)」を開発し、7月6日より AppStore でのダウンロード販売を開始いたしました。

新商品開発やイベント企画など、さまざまなビジネスシーンで独自性・新奇性のあるアイデアが求められています。良いアイデアを創造するためには、まずはできるだけ多くの“切り口”(=視点)を発見することが重要です。しかし、一人や少人数でのブレインストーミングには限界があります。ユーザーの発想が行き詰った際に突破口を開くのが「切り口 BOY」です。

検討したいテーマを画面に入力すると、すぐに「切り口 BOY」が計 20 個の多種多様な“切り口”案をユーザーに返します。ユーザーはそれらの切り口をヒントに、発想の幅を広げ、新たなアイデアを創造することができます。

「切り口 BOY」は、「クラヤミ食堂」などの生活者向けコンテンツを通じて新しい価値観の提示やムーブメント創造を行っている「博報堂こどもごころ製作所」が、活動の原点である“こどもごころ”に着想を得て開発したものです。こどもはときどき、知識や常識にしばられた大人には決して思いつかないような、自由で豊かな発想をします。「切り口 BOY」は、大量の単語データベースの中からランダムに抽出した言葉をユーザーが入力したテーマと合体させるプログラムにより、まるでこどもの発想のようにクリエイティブで意外性のある切り口を生み出します。

コンテンツ企画、商品開発、コミュニケーション開発の仕事に携わられている方など、日々新しいアイデアや切り口を探している方々に活用していただきたいアプリケーションです。

「切り口 BOY」は、こどもごころ製作所が開発した iPhone アプリケーションの第二弾にあたります。2009 年 10 月に発売した第一弾アプリ「エンピツ君に聞け！」は、現在までダウンロード数 14 万、発売の翌月には AppStore の無料アプリランキング 1 位も獲得しました。

今後も博報堂は、当社の強みである高いクリエイティビティをデジタル領域において発揮し、企業・生活者・社会の役に立つ多様なソリューションをご提供してまいります。

本件に関するお問い合わせ先： 博報堂広報室 西尾・山野 (TEL:03-6441-6161)



読みやすさを追求した書体を使用

■ 「切り口BOY」概要

発売日：2010年7月6日

企画・制作：博報堂こどもごころ製作所

制作：(株) テトテ (株) カヤック (株) スパイスボックス (株) ホワイトデザイン

音楽制作協力：(株) ソニー・ミュージックパブリッシング

アーティスト：nanomachine

適用端末：iPhone4/3G/3GS iPodTouch iPodTouch 2G

使用アプリケーション：AppStore にてダウンロードが可能 (ジャンル：ビジネス)

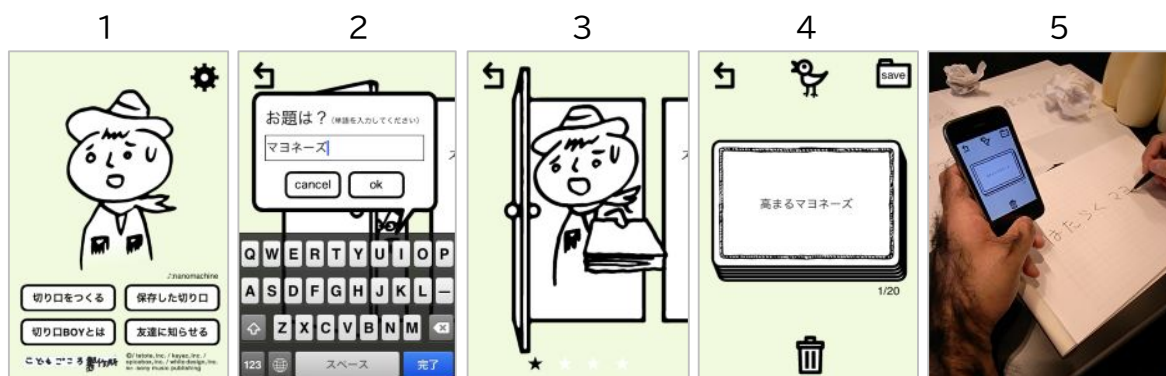
価格：230円

※iPhone 及び AppStore は Apple Inc の登録商標です

特徴：

- ・ 1回のオーダーにつき20個の異なる切り口が生成されます。同じテーマで何度でも繰り返しオーダーが可能で、毎回異なる20個の切り口が生成されます。
- ・ 気に入った切り口の保存、Twitterへの投稿機能あり。
- ・ アーティスト nanomachine (ナノマシーン) によるオリジナルのテーマ曲。ソニー・ミュージックより「着うた」にて配信予定。(7月配信予定)

■ 「切り口BOY」利用イメージ



1：「切り口BOY」を呼び出します。

2：“お題”を入力し、「切り口BOY」にオーダーします。(例：マヨネーズ)

3：すぐに「切り口BOY」が“切り口”を持ってきます。

4：切り口の数はい回あたり20個。(例：「高まるマヨネーズ」)

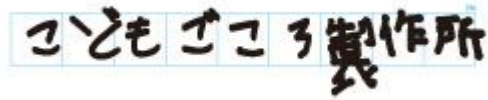
5：「切り口BOY」の切り口がヒントとなって、さまざまなアイデアが浮かんできます。

また、同じお題でも、オーダーするたびに異なる切り口が20個ずつ生成されます。使えば使うほど、思ってもみなかった新たな視点に次々と出会うことができ、ユーザーの発想が広がってきます。(例：「鬼マヨネーズ」「燃えるマヨネーズ」「初心者マヨネーズ」「はたらくマヨネーズ」・・・)



読みやすさを追求した書体を使用

(*1) こどもごころ製作所



BtoC（生活者向け）コンテンツを通じて価値観の提示やムーブメントの創造を行っている博報堂の専門組織。

日本人が本来持っていた豊かな感性や、ルールや常識にとらわれないやんちゃな気持ちや冒険心・自由な気持ちを“こどもごころ”と定義し、現代社会に生きる大人たちがそうした気持ちを取り戻すことで社会がもっと元気になることを目指して、様々な情報発信やコンテンツ開発を行っている。現在の代表的なコンテンツは「クラヤミ食堂」「エンピツ君に聞け!」「親子のはらうた」など。

将来は、生活者も巻き込んだ“もっと豊かでワクワクする社会”を実現するための運動体となることを目指す。

所長：軽部拓 メンバー：10名

<http://www.kodomogokoro.jp/>



読みやすさを追求した書体を使用